

全フォークリフトに導入スタート 事故防止に安全教育推進へ

センターの全フォークに導入 トラックの実績が後押し

(株)トランス・グリップは菓子・食品の総合商社の物流子会社として、1990年に設立された。親会社が扱う菓子・食品を全国のコンビニやスーパーなどに供給する工程を担っている。当初は店舗への配送業務だけでスタートしたが、現在は物流センターの運営も受託し、商品の入庫から保管、仕分けも含めた業務を一貫して担うようになった。今回取材で訪れたセンターでは食品全般を取り扱っている。同センターは、プロロジスパーク川島(埼玉県比企郡川島町)内にあり、埼玉県内の店舗配送を受託している。

同センターの業務作業効率化に欠かせないのがフォークリフトだ。リーチ式14台、カウンター式4台が稼働している。リーチ式は庫内で商品を入出庫、カウンター式はトラックへの積み降ろしという役割分担だ。今年9月、これら計18台のフォークリフトすべてにデータ・テックのドライブレコーダーが導入された。同社のセーフティレコーダ®シリーズのうち、フォークリフト専用に開発された「SRForkLift N」である(写真②)。



竹上清文氏



角谷健児氏



新井 崇氏

本センターではこれまで、人身事故は発生していないが、フォークリフトがラックや防火シャッターに接触するといった軽微な事故は絶えないという。事故の発生頻度は月1件程度だが、大きな課題となっている。もちろん手をこまねいていた訳ではなく、KY(危険予知)トレーニングで事故の再現写真を撮り、それを教材に月例ミーティングを実施。ヒヤリハットについてフォークオペレーターが状況、原因、改善策を文書にまとめ、毎月最低1枚は必ず提出するといった取り組みも進めている。

そして今回、フォークリフトオペレーターのさらなる安全意識の向上を図るため、セーフティレコーダ®の導入を決めた。既に同社はトラック全台にドライブレコーダーを導入しており、効果を挙げた実績があることが、導入を後押しした。それを知る荷主からも導入の要望があったと

いう。

代表取締役社長の竹上清文氏は「事故原因を究明するだけでなく、安全教育につなげたい」と考えました」と語る。センター内では常時30人のピッカーがフォークリフトと同じ動線を行き来しており、フォークリフトの傍らをすり抜ける場面も多い(写真③)。だからこそ未然に事故を防止するため、フォークリフト安全教育を強化することにしたのだ。

危険運転の実際を学んで改善 バック・旋回中の挙動も検知

セーフティレコーダ®では、加速度センサーで急加速や急ブレーキ、ジャイロセンサーで急旋回などの注意すべき急挙動を検知。そのデータとともにカメラの映像記録を合わせて検証すれば、バックや旋回中の荷崩れ、走行中に周りの荷物と接触した原因を確認できる。急挙動のデータ

と映像を「注意書」として印刷することも可能だ。常時記録をとっているため、急操作だけでは分からない些細な事故も見逃すことがない。また、事後に検証するだけでなく、危険運転を検知するとブザーで警告音を発してオペレーターに注意喚起する機能もあ



①プロロジスパーク川島



②フォーク屋根に設置したセーフティレコーダ®



3 ピッカーとすれ違うフォークリフト

る。同センター第一営業所・所長の角谷健児氏は「実際にこの運転のこの部分が問題だということをオペレーター全員で学習できれば、改善につながります」と期待する。他社のドライブレコーダーと違い、走行速度や加減速、旋回操作の状況を詳細に把握可能なので、様々な視点から運転操作を評価でき、100点満点で点数化する診断機能も備える。

テスト導入の段階では、急発進や急ブレーキが少なく非常に優秀という評価を受けた。それでも竹上社長は厳しい姿勢を崩さない。「その結果だけでは、優秀と分かった、で終わってしまう。事故を起こさなければいいと考えたら、オペレーター本人も危険運転に気づかないでしょう。客観的なデータで深掘りすることが大切です」と強調する。

たとえば同センターでは、時間に

追われる忙しさの中、バックする際に後方確認が不十分な場面も散見されるという。これは人身事故にもつながりかねない危険な運転だ。セーフティレコーダ®ならバックの挙動も検知・記録できる。前進からバック、バックから前進に切り替える時、その停止時間をグラフ化して集計する機能だ。これで安全確認をどの程度行っているか推測できる。

第二営業所・所長の新井崇氏は「一呼吸置いてからバックすることがなかなかできていません。データとして残れば、指導につながれます」と語る。

全従業員で情報共有 密接なコミュニケーションに期待

同社では今後、注意すべき挙動として記録された映像のうち、ヒヤリハットのような特に危険な運転映像を食堂などに掲示し、センターの従業員全員で共有を図る考え。前述の

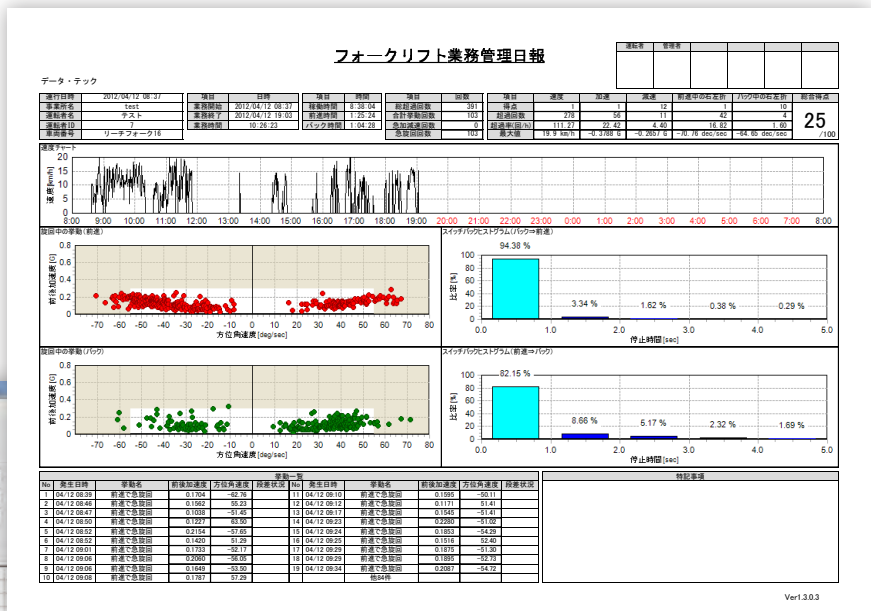
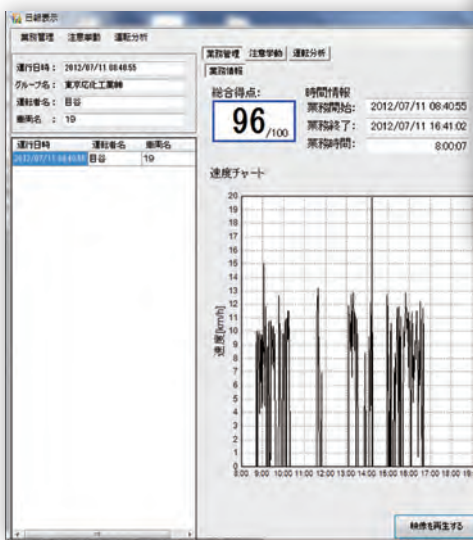
ようにフォークリフトの稼働域を多数のピッカーも通行することから、「フォークリフトのオペレーターだけが気を付けていても事故はなくなる」（竹上社長）からだ。

同社は管理者が注意喚起するだけの教育から、より密接なコミュニケーションを伴った安全向上の取り組みへ進化させたい、と計画している。日報をA4用紙1枚の帳票にして印刷する機能がある（図表1）ことから、この日報を手がかりにして朝礼や終業時などに安全運転について意見交換をする考え。

竹上社長は「センター運営の善し悪しはフォークリフトで決まると思っています。セーフティレコーダ®の導入を機に、しっかりと安全を確保していきます」と力強く語っていた。同社ではWEBサイトでトラックとフォークリフトにドライブレコーダーを完備していることを情報発信し、安心して働ける職場であることを優秀な人材獲得のために訴えていく予定だ。

MF

図表1 業務管理日報を自動で印刷できる



「印刷」ボタンをクリックすると自動で印刷できる

問い合わせ先

datatec データ・テック

東京都大田区蒲田4-42-12

TEL: 03-5703-7060

http://www.datatec.co.jp

無料運転診断キャンペーン実施中!
お気軽にご相談ください。(機器本体を無料貸し出し)